

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金	4,490,000	売買目的有価証券 有価証券売却益	3,600,000 890,000
2	当座預金	300,000	売掛金 未払金	200,000 100,000
3	減価償却費 貯蔵品 固定資産除却損	10,000 20,000 40,000	備品	70,000
別解	減価償却費 貯蔵品 固定資産除却損	10,000 20,000 40,000	備品 備品	10,000 60,000
4	受取手形 当座預金 前受金	600,000 300,000 100,000	売上	1,000,000
5	修繕引当金 修繕費	400,000 100,000	当座預金	500,000

・解説

1. 有価証券の売却に関する仕訳です。

前期末の決算で以下のような仕訳（ここでは売却分のみピックアップ）を切っていることが前提になるので、それを頭に入れて解答の仕訳を考えると簡単です。

☆参考・前期末に切られた仕訳

(借) 売買目的有価証券 900,000 / (貸) 有価証券評価益 900,000

つまり、売却時点での有価証券の帳簿価額は、購入時の 2,700,000 円 (3,000 株@900 円) ではなく、**評価替え後の 3,600,000 円 (3,000 株@1,200 円)** で評価されており、この有価証券を 4,500,000 円 (3,000 株@1,500 円) で売却したわけですから、差額の 900,000 円が有価証券売却益になります。

なお、純手取額は売却価額 4,500,000 円から売買手数料 10,000 円を差し引いた 4,490,000 円になる点にご注意ください。

(借) 現金 4,490,000 / (貸) 売買目的有価証券 3,600,000
(借) 支払手数料 10,000 (貸) 有価証券売却益 900,000

…とこれで OK と言いたいところですが、本問の場合、問題文に「**売買手数料は、有価証券売却益または売却損に加減して処理すること**」とあるので、借方に計上されている支払手数料 10,000 円と貸方に計上されている有価証券評価益 10,000 円を相殺消去します。

★解答

(借) 現金	4,490,000	／	(貸) 売買目的有価証券	3,600,000
-(借) 支払手数料	10,000		(貸) 有価証券売却益	900,000
				890,000

よって上記の仕訳が正解になります。有価証券の売却に関する問題は、第105回の間2や第107回の間1、第113回の間2、第116回の間2、第118回の間4、第119回の間3、第121回の間2、第122回の間3、第125回の間2、第133回の間2、第137回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 銀行勘定調整表に関する問題です。

銀行勘定調整表は見た目がややこしいので、苦手意識を持っている方も多いようですが、ひとつひとつに分けて考えていくと意外に簡単に解けるので、根気強く取り組んでください。本問も2つに分けて考えていきます。

それでは、まず1つ目の取引から考えていきましょう。問題文に「決算日に当座預金口座に振り込まれた得意先の売掛金 ¥ 200,000について当社では未処理であった」とあるので、**未処理取引**だったことが分かります。未処理取引に関する取引については修正仕訳を切る必要があるので、決算期末において以下のような仕訳を切ります。

★解答①…未処理取引

(借) 当座預金	200,000	／	(貸) 売掛金	200,000
----------	---------	---	---------	---------

では次に2つ目の取引を考えていきましょう。問題文に「広告宣伝費の支払のために振り出したものとして処理していた小切手 ¥ 100,000が、先方に未渡しとなり金庫に保管されていた」とあるので、**未渡小切手**に関する取引であることが分かります。未渡小切手に関する取引については修正仕訳を切る必要があるので、決算期末において以下のような仕訳を切ります。

★解答②…未渡小切手

(借) 当座預金	100,000	／	(貸) 未払金	100,000
----------	---------	---	---------	---------

上記①②の仕訳をまとめると解答の仕訳になります。

銀行勘定調整表に関する問題は、第100回の間4や第101回の間1、第105回の間4、第113回の間4、第115回の間5、第116回の間5、第123回の間1、第125回の間3、第133回の間3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 固定資産の除却に関する問題です。

固定資産の除却時の帳簿価額を算定したうえで、貯蔵品の評価額との差額を除却損で処理しましょう。

■①固定資産の除却時の帳簿価額を算定する

除却時の帳簿価額は、前期末時点の帳簿価額から当期の減価償却費を差し引いて求めましょう。なお、前期末時点の帳簿価額は、取得原価から前期末時点の減価償却累計額を差し引いて求めます。

$$\text{除却時の帳簿価額} = \text{前期末時点の帳簿価額} - \text{当期の減価償却費}$$

$$\text{前期末時点の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{前期末時点の減価償却累計額}$$

まず、問題文の「平成16年の期首（4月1日）に購入したコンピュータ」から、前期末時点で3年分（平成16年4月1日～平成19年3月31日）の減価償却が行われていることがわかります。

そこで、3年分の減価償却費を計算…したいところですが、本問は取得原価が不明なため、まず先に取得原価を求める必要があります。

問題文の「当該資産の当期首（平成19年4月1日）の簿価は ¥ 70,000 であり、当該資産は定額法（耐用年数9年、残存価額は取得原価の10%）によって償却され」から、当期首の簿価が分かるので、取得原価を X と置いて、以下のような1次方程式を作って X の値を求めましょう。

$$\text{取得原価} - \text{前期末までの3年分の減価償却累計額} = \text{当期首の帳簿価額}$$

$$X - 0.9X \times 3 \text{年} / 9 \text{年} = 70,000 \text{円}$$

$$X = 100,000 \text{円 (取得原価)}$$

このような流れで取得原価 100,000 円を計算したら、まず3年分の減価償却費（＝前期末時点の減価償却累計額）を計算しましょう。

$$3 \text{年分の減価償却費} = 100,000 \text{円} \times 0.9 \times 3 \text{年} / 9 \text{年} = 30,000 \text{円}$$

上記の計算の結果、前期末時点の帳簿価額は 70,000 円（＝100,000 円－30,000 円）であることが分かります。

★解答仕訳（ステップ1）

（借）備品減価償却累計額 30,000 / （貸）備品 100,000

次に、当期の減価償却費を計算しましょう。問題文の「当期末（平成20年3月31日）に除却」から、当期末に除却したことが分かるので、1年分をそのまま当期の減価償却費として計上します（※月割り計算は不要）。

$$\text{当期の減価償却費} = 100,000 \text{円} \times 0.9 \times 1 \text{年} / 9 \text{年} = 10,000 \text{円}$$

以上の計算により、除却時の帳簿価額が 60,000 円（＝70,000 円－10,000 円）であることが分かります。

★解答仕訳（ステップ2）

（借）備品減価償却累計額 30,000 / （貸）備品 100,000

（借）減価償却費 10,000

■②貯蔵品の評価額との差額を除却損で処理

除却時の帳簿価額が判明したら、あとは貯蔵品の評価額との差額を除却損で処理するだけです。

$$\text{固定資産除却損} = \text{除却時の帳簿価額} - \text{貯蔵品の評価額}$$

問題文の「スクラップとしての価値は ¥ 20,000 であると見積もられる」から、貯蔵品の評価額が分かるので、除却時の帳簿価額との差額 40,000 円（＝60,000 円－20,000 円）を固定資産除却損で処理します。

★解答仕訳（ステップ3）

（借）備品減価償却累計額 30,000 / （貸）備品 100,000
（借）減価償却費 10,000
（借）貯蔵品 20,000
（借）固定資産除却損 40,000

最後に、本問は直接法による処理が問われているので、借方の減価償却累計額と貸方の備品を相殺消去します。

★解答仕訳（ステップ4・完成）

~~（借）備品減価償却累計額 30,000~~ / （貸）備品 ~~100,000~~ 70,000
（借）減価償却費 10,000
（借）貯蔵品 20,000
（借）固定資産除却損 40,000

なお、「当期の減価償却費に関する仕訳」と「除却に関する仕訳」を別々に考えて、2本の仕訳をもって解答とする方法もあります。参考までに以下の別解をご確認ください。

☆参考1・当期の減価償却費に関する仕訳

（借）減価償却費 10,000 / （貸）備品 10,000

☆参考2・除却に関する仕訳

（借）貯蔵品 20,000 / （貸）備品 60,000
（借）固定資産除却損 40,000

★別解（参考1+参考2）

（借）減価償却費 10,000 / （貸）備品 10,000
（借）貯蔵品 20,000 / （貸）備品 60,000
（借）固定資産除却損 40,000

固定資産の除却に関する問題は、第103回の間1や第110回の間5、第121回の間5、第135回の間3、第147回の間1、第148回の間2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 売上取引に関する問題です。

本問は【約束手形の裏書譲渡に関する取引】【小切手の受け取りに関する取引】【前受金に関する取引】の3つに分けて考えましょう。

■約束手形の裏書譲渡に関する取引

まず、問題文の「代金のうち 円 600,000 については他店振り出し、同得意先受け取りの約束手形を裏書譲渡され」から、他店振り出しの約束手形を裏書譲渡されたことが分かります。

この手形を受け取ることにより、手形の支払期日に手形代金を受け取る権利が発生するので、受取手形勘定の増加として処理します。

★解答① 他店振出約束手形を裏書譲渡された時の仕訳

(借) 受取手形 600,000 / (貸) 売上 600,000

■小切手の受け取りに関する取引

次に、問題文の「**¥ 300,000 については～**」から当店振り出しの小切手を受け取ったことが分かるので、当座預金勘定の増加として処理します。

★解答② 当店振り出しの小切手を受け取った時の仕訳

(借) 当座預金 300,000 / (貸) 売上 300,000

なお、小切手の受け取りに関しては、以下の3パターンの処理がよく問われます。参考までにご確認ください。

- ・得意先振出小切手を受け取った→**現金**の増加
- ・当店振出小切手を受け取った→**当座預金**の増加 (本問)
- ・現金で受け取ってただちに当座預金口座へ預け入れた→**当座預金**の増加

■前受金に関する取引

最後に、問題文のなお書きの「**同商品の販売に関しては、すでに契約時に ¥ 100,000 の現金を受け取っている**」から、本取引に先立って現金を受け取っていたことが分かるので、商品販売時には現金受取時に計上した前受金勘定を相殺する仕訳を切ります。

☆参考 現金受取時の仕訳

(借) 現金 100,000 / (貸) 前受金 100,000

★解答③ 商品販売時の仕訳

(借) 前受金 100,000 / (貸) 売上 100,000

最後に①②③の仕訳をまとめると解答になります。

売上取引に関する問題は、第105回の問1や第134回の問5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 固定資産の修繕に関する問題です。

修繕に関する問題は、支出した費用を「収益的支出」と「資本的支出」に分けて処理しましょう。

■収益的支出：定期修繕など固定資産の諸機能を維持するための支出 → 修繕費・修繕引当金で処理

■資本的支出：耐用年数を延長させたり、その価値を高めるような支出 → 固定資産の増加として処理

本問は、問題文の「**前期に台風により損壊した工場の屋根を ¥ 500,000 で修理**」から、この500,000円が**収益的支出**であることが分かります。

また、問題文の「**前期末において ¥ 400,000 を費用に見積もり計上している**」から400,000円の修繕引当金が設定されていることが分かります。

よって、500,000円のうち400,000円については**修繕引当金**を取り崩して処理し、残額の100,000円については**修繕費**で費用処理します。

★収益的支出に関する仕訳

(借) 修繕引当金 400,000 / (貸) 当座預金 500,000

(借) 修 繕 費 100,000

なお、本問は資本的支出は発生していないので、上の収益的支出の仕訳がそのまま解答仕訳になります。

固定資産の修繕に関する問題は、第 100 回の問 1や第 102 回の問 4、第 110 回の問 1、第 115 回の問 3、第 119 回の問 2、第 123 回の問 5、第 124 回の問 1、第 132 回の問 1、第 137 回の問 3、第 139 回の問 1、第 139 回の問 4、第 141 回の問 2、第 147 回の問 1、第 149 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。